



藻の俳句

隠岐の生息地が国の天然記念物指定されたクロキヅタ（図1）の自生地を愛媛県で発見した野村義弘（1897-1970）は伊方町の植物学者であるが、愛媛では俳人野村螺岳泉として知られ、73年の生涯で2,462句の入選句を遺した。それらの句は町見郷土館（伊方町二見甲 813-1）が所蔵する『句集クロキヅタ』（図2）に纏められている。藻類も研究し、本学会会員でもあった螺岳泉（図3）ならでの句も含まれているので、来年没後50年を迎えるにあたり、藻が詠まれた4句を紹介したい。3番目の句など、淡水紅藻を採集されたことがある方には心の琴線に触れる名句ではないだろうか。

しほぎみに 神馬藻まじる 朧かな
 しまそどの 生ふ鳶岩の 秋の潮
 かはもづく そだつ流れと なりにけり
 海膽もみて くろきづたに 日のあたりけり

図1は野村が採集した伊方産標本（国立科学博物館所蔵）。図2と3の写真は、町見郷土館学芸員の高嶋賢二氏のご厚意による。（北山太樹）

